

日時 令和6年7月5日（金）午後7時から8時40分

会場 島田市保健福祉センター3階研修室

1 開 会

2 委嘱状の交付

小松原委員欠席

3 健康福祉部長挨拶

4 島田市健康づくり推進協議会について

資料1について説明。

計画の進捗状況、部会の結果については第2回健康づくり推進協議会で報告する予定。

5 会長および副会長の選任

立候補者なし。

事務局から、会長田口委員、副会長畑中委員とすることを提案。

異議なし 会長を田口委員、副会長を畑中委員に決定した。

6 報告事項

① 第3次島田市健康増進計画の取り組みについて

資料2について事務局より説明。指標のほとんどは目標を達成した。

資料3について事務局より説明。資料2の施策を実施しているが、めざそう値はアウトカム数値のため、実施した施策が数値として現れるまでには時間がかかると思われるが引き続き推進していく必要がある。

質疑なし

② 第4次島田市健康増進計画について

計画書をもとに事務局より説明。

令和5年度に第4次島田市健康増進計画、第4次島田市食育推進計画、第2次島田市自殺対策計画を策定した。令和4年度に市民アンケート調査、令和5年度には計画策定検討委員

会などで本計画について検討を重ねてきた。

【計画策定の背景】

生活習慣の変化により生活習慣病にかかる人が増えている。ライフスタイルが多様化、疾患やそれに伴うリスクも多様化。病気の発症予防・重症化予防、健康寿命の延伸に重点を置き、生活の質の向上を推進する取り組みが求められている。すべての市民が自然に健康になれる環境づくりに向けて、地域、行政、企業等が協働していく必要がある。

【計画の位置づけ】

国の動向や様々な機関と整合性をとり策定。

SDGsの考え方も取り入れている。自然に健康になれる環境づくりが新たに加わった部分である。第2次島田市総合計画を最上位計画としている。市の他の関連計画と整合性を図り推進していく。計画期間6年間。国・県の間評価や関連計画の期間と合わせ、計画期間を決定した。

【島田市の現状】

人口は毎年500～600人減少しており、令和22年には約8万人になると推測されている。合計特殊出生率は、国や県が低下しているのに比べ島田市は横ばいで経過し、現在では国や県より上回っている。標準化死亡比の男性不慮の事故、肺炎、前立腺がん、腎不全、女性は、腎不全、脳内出血、不慮の事故、脳梗塞が多い。国保特定健診受診率は、年々増加傾向。がん検診の受診率はどの項目においても男女ともに減少傾向。

歯周疾患検診の受診率も減少傾向。要精密は70%。歯周病者が多い。中学校1年生の虫歯有病率は、近隣や県より高い。噛みにくい、ほとんど噛めない人の割合が全年代で県平均を上回っている。

食事、運動の意識向上、受動喫煙防止の対策が求められる。

高校生の低体重の割合が増加していて若い世代のやせの問題がある。

【基本理念】

「健康で自分らしく生きることのできるまち」とし、これまでの計画を継続している。介護予防のための運動、メンタルヘルス、健康になるための環境づくりも重要視している。

「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」も国や県と同様基本理念に含めた。

基本方針、基本施策について説明。

【具体的な取り組み】

1 生活習慣と健康状態の改善

高齢者の低栄養、乳幼児の肥満、など食生活についての周知啓発に努める。

運動習慣の定着による健康増進、介護予防に努める。

自殺対策計画を推進。整合性を図りながらこころの健康について課題に取り組んでいく。

生涯にわたる予防歯科を推進していく。

受動喫煙防止に配慮した喫煙場所の設置など受動喫煙防止対策の普及啓発、妊娠中の飲酒や喫煙が早産等のリスクについても周知する。

2 生活習慣病の発症予防・重症化予防

定期的な受診、精密検査の受診勧奨など検診を受けやすい体制づくり、がん検診の必要性や子宮頸がんワクチンの重要性など関連する情報の普及啓発も推進する。

健診を受診しやすい体制づくり、レセプトデータを活用した分析を行い、生活習慣病の発

症予防・重症化予防を推進する。

高齢者だけでなく、働き盛り世代、若いうちからのフレイル予防を推進する。

3 健康づくりのための社会環境の質の向上

地域の力を結び付け、健康づくりを推進していく。

健幸マイレージを活用、事業所や飲食店との連携、ウォーカブル空間の創出などによるウォーキング人口の増加に向けて取り組んでいく。

【計画の推進体制】

関係機関と連携し、計画を推進していく。

諸施策、諸事業の進捗状況とその成果を評価し、計画最終年度にはアンケート調査を実施するなど、目標達成状況を把握する。

質疑なし

7 意見交換

委員)

生活習慣病の発症・重症化予防を中心に行っている。特に循環器病、糖尿病対策について、コントロールが重要である。高齢者は病気の関心があるのでコントロールしているが、20～40代の若い世代は、症状もなく、放置している人も多い。50代くらいで心筋梗塞を発症したにもかかわらず放置している方もいる。今後の健康寿命を考えると、若年層の生活習慣病に関する知識や意識づけを大切にしていかなないと考えている。

委員)

フレイルは、オーラルフレイルから起こる場合が多い。むせたり、活舌が悪くなったり、食べこぼしたりから始まる。研究により明らかになってきた。普段の生活でもそんなことを覚えていてもらえるといいと思う。

歯周病と糖尿病は非常に相関がある。医科歯科連携を進めていきたいと思う。普段の診療で歯周病がひどい人は糖尿病は大丈夫か聞いている。連携していけたらいい方向に行くのではないかと感じている。

委員)

薬剤師会としては小学生中心にたばこ・禁煙の話をしている。地域から要望があれば出前講座も薬剤師が出向いて薬の話や禁煙の話もしている。企業内の喫煙について昨年度講話を行った。できれば、公共施設は喫煙場所を設けるのではなく、全面禁煙に向けて動いてほしい。子どもをたばこの煙から守るという観点で言うと、イベントでは喫煙所を設けない、はっきりとした政策をしていただけるとよい。

子宮頸がんワクチンの補助が今年秋ごろで終わるが子宮頸がんワクチンを推奨していくことについて市はどう考えているか。

事務局)

定期接種、国で一時中止していた世代はキャッチアップ接種を実施している。未受診者へも接種勧奨をしている。キャッチアップ世代に今後補助については考えていない。接種率が伸び悩んでいる定期接種について継続的に接種勧奨していく。

委員)

秋までに急いで進めてほしいと製薬会社からも話があり薬局でも周知している。キャッチアップ世代の普及もっと考えていただけたらと思う。

委員)

県計画は国に合わせ12年間。地域別に進める取り組みとして、高血圧対策、運動習慣のある人の割合を増やす取り組みを推進していく。具体的には情報発信、関係者の資質向上と連携を実施していく。島田市の健康増進計画と重なる部分でもあるため、今後も協働して推進していきたい。(別紙資料提供あり)

委員)

保健委員は定期的集まり、各地区での活動について報告しあったりしている。コロナで中止していた夏祭りなどが復活している。地域によって活動は様々であるが、体組成や血圧測定したり地域の人に健康についての普及活動をしている。適塩の普及活動、健診普及啓発に力を入れている。

委員)

子どもから高齢者まで健全な食生活ができるように推進・普及活動を行っている。毎月学習会(調理実習)のほかに、中溝町の駄菓子屋さんやこども食育講座などもやっている。親父の井戸端会議、金谷のもみじ学級など高齢者向けの活動もやっている。減塩みそ作りもしている。島田の大井川マラソンでも具だくさん島田汁を配布している。

委員)

市民ひとり1スポーツが目的。昨年障がいのある方も健常な方もできるポッチャを実施し好評だった。運動したいけどできないというママさんのためのスポーツ教室がとても人気。今年新しい取り組みは親子トランポ教室を実施し、好評だった。少子化対策としてスポ婚ふらば～るを計画中。スポーツしたいけどなかなかできないという人に声かけていきたい。

委員)

社会福祉予算の割合が多い。国民の負担になっている。みんなが健康になれば社会保障費は減らせる可能性はある。自治会でも居場所やスポーツ教室をやっている。取り組みはしているが、参加する人は健康の意識が高い人、リピーターが多い。いかに底辺を広げて参加する人を増やすかが課題。わかっている人は自分で努力する、参加しようとしなくていい人がフレイルになってしまう。参加していない人がフレイルになる、介護になる、なんとかこれに歯止めをかけたい。いかに多くの人に参加してもらえかが課題と感じている。

委員)

少子化ではあるが、保育所を必要としている保護者が増えている。今年度は待機児童が若干出てしまった。

保育所は子どもの健康はもちろんだが、保護者のこころの健康も気を配っていかないといけないと思っている

今年度食育にも力をいれて、栄養士と連携し、かみかみメニューを取り入れている。口が開いている子どもの増加、噛む力が低下しているため、改善したい。まずは給食を見直そうと動き出した。

委員)

ギガスクールが開始し、3～4年経過、家でもデジタル教材で学んでいる。視力が低下、

昼夜逆転している子が増えてきている、食生活にも影響、運動量が減っている課題が出てくる。メディアをうまく活用しながらそれから離れる時間も確保していく必要がある。保護者への普及啓発も重要である。

若者の自殺がなかなか減らない。子どものうちからSOSを出せることが大切。SOSに対する教育は、中学校から始まり小学校へも広がりつつある。オーバードーズなどが増えている。小中学校における国の教育振興基本計画でウェルビーイングが前面に打ち出された。主観的な幸福感含め、まずは子供たちが安心安全に学校に通える生活を整えていくことを真剣に考えていかなくてはならないと各校で取り組んでいる。

委員)

シニア世代の健康維持を目的に高齢者の運動の支援をしている。65~90歳前くらいの方が元気に毎週参加している。全体で180人くらい利用している。運動だけでなくおしゃべりしたりしている。サポーター養成講座もやっている。サポーターは約100人。14教室ある。市内3会場ある。参加者はまだまだ少ないと感じている。サポーターも高齢者。サポーターの健康維持にもなっている。

委員)

中小企業の健康経営を勧めている。人手不足、若い従業員が集まらない企業も増えてきている。中小企業も健康経営に取り組んでいかないと若手の獲得は難しい。講座を開催しても受講者は集まらない。辛抱強くやっていかなければならないと思っている。健診受けると助成金が出る法人向けの生命保険があるが、4人に1人しか申請してこない。健康診断の認識が若手に薄いなどと思っている。事業者へのPRなどは協力できるため情報をいただけたらと思っている。

委員)

健康意識高い人以外の人をどう取り込んでいくかが大切だと思っている。健診を受診しない人の中に問題は潜んでいる。受診しない人を受診に結び付けることが市として大事になってくる。歯科医科連携、病診連携し、早期に見つけて早期に治療することで健康な市民が増えていく。底辺をひろげることが大切だと思う。

委員)

事業者と大学と協力で噛む力に注目した実証事業を実施予定。お口の健康が全身に影響するという認識で実施していく。

今年2月から健幸マイレージ事業がデジタルでもできるようになった。ポイントはマイポイントのほかにボーナスポイントもある。デジタル化したことで昨年の同時期と比べて360人以上多くの方が申し込んでいる。また若い世代の参加者も増えている。デジタル化により少し裾野が広がったと認識している。委員の所属する団体などにも参加を呼び掛けてもらえたらと思う。地域の居場所等でもスタンプを押すことができる。

委員)

居場所をやっているが、スタンプは押しているが、デジタルはやってない。どうしたらいいか。ほしいといえどももらえるなら、そういう情報をしっかりおろしてほしい。

事務局)

希望する団体にはポイントが貯まるQRコードを配布している。

副会長)

様々な団体が活動しており、健康になる環境は整ってきていると感じている。その活動の対象となる方は知識があるのか、その行動を起こすだけの技術があるのか、行える環境があるかが重要。行動を変えていくには健康マイレージのような、その行動を強化するような褒美が必要だと思う。今後どのように発展していくか期待している。

環境を整えても参加しない人できない人のためには、出てくるためのきっかけのための環境づくりが必要だと思う。医科歯科だけでなく様々な連携が必要である。

委員) (コメント代読)

学校教育の現場として生徒が給食の献立の立案をする学習がある。栄養指導教諭を中心に地産地消の学習をすすめている。

少子化により、選べる部活が減っている。部活動の地域移行が進められている。

SNSが若い世代活用している。世代に合わせた媒体の活用がよいのではないか。健康はなかなか目にみえないのでアプリで楽しく取り組めたり可視化できたり健幸マイレージのようにインセンティブも大切なのではと思う。

会長)

活発な意見交換ありがとうございます。連携の重要性を再認識した。

自殺対策計画に関して、自殺のキーワードは孤独。独居より同居の人の自殺率が高い。物理的な孤独より心理的な孤独の方がよくないという。看護師国家試験の模擬試験で、正答率が低かった問いの一つが「自殺を考えているかどうか聞いて自殺をしないことを約束させる」という問い。正答は○だが、「触れない」と考える人が多かった。受け取る方の体制が大切と感じた。